

〈資料編〉

資料－1

「令和5年度 葛飾区区民モニターアンケート調査」

(2023年11月)

資料－2

「葛飾区文化芸術に関する基本方針策定に向けたアンケート調査」

(2024年9月)

資料一 1 「令和5年度 葛飾区区民モニターアンケート調査」(2023年 11月)

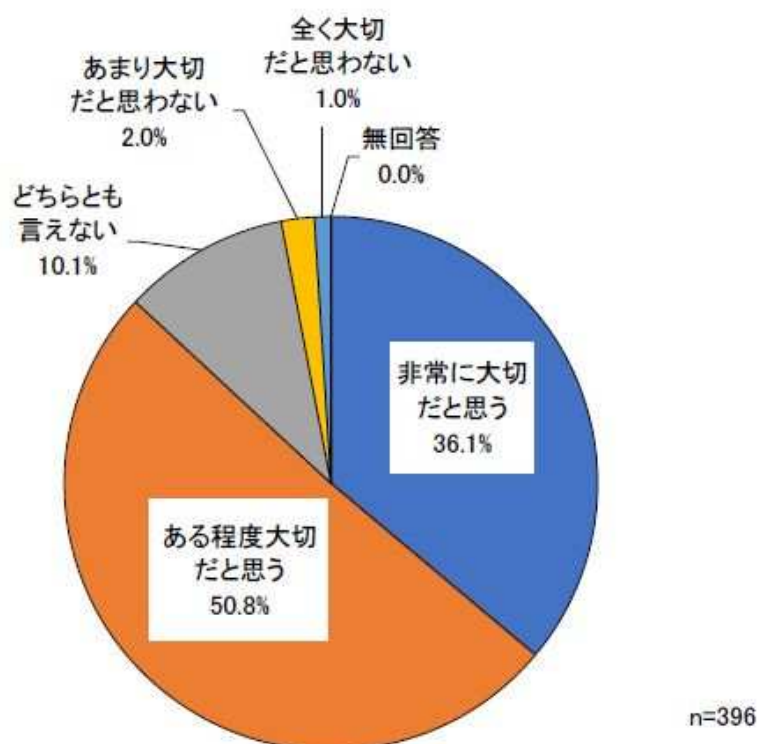
【調査概要】

- ・目的 区が実施している施策や区が発信している情報等について、無作為に選定した方から公募により決定した「区民モニター」から、適時かつ具体的なお意見を収集することにより、区政への活用を図るため。
- ・設計 (1) 調査対象 無作為で選定した18歳以上の区民4,000人から公募により決定したウェブモニター500名
(2) 調査方法 インターネットでの回答
(3) 調査期間 令和5年10月4日(水)から10月23日(月)まで
(4) 有効回答 396名

(17)文化芸術活動を鑑賞、行うことの大切さ

問17 あなたは、区民が文化芸術を鑑賞することや、自ら文化芸術活動を行うことは大切だと思いますか？(1つ選択)

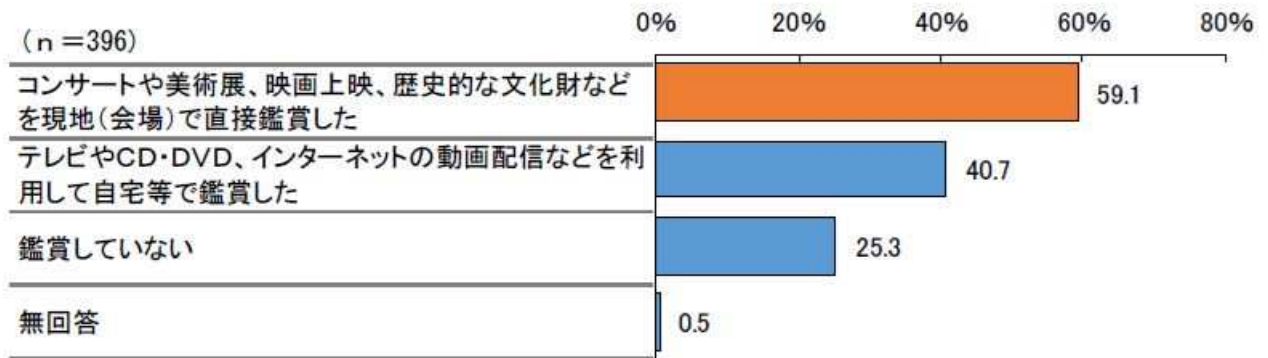
図表一31 文化芸術活動を鑑賞、行うことの大切さ(全体)



(18) 文化芸術の鑑賞の有無と手段

問 18 あなたは、この1年間に文化芸術を鑑賞しましたか？また、鑑賞の手段を教えてください。（あてはまるものをすべて選択）

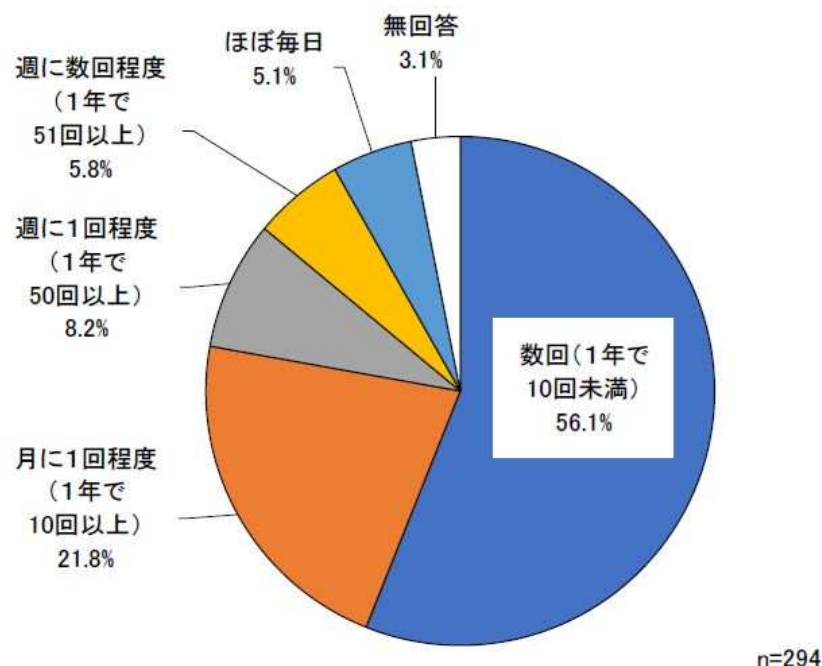
図表-33 文化芸術の鑑賞の有無と手段（全体）



(20) 1年間の鑑賞頻度

問 20 問 18 で「コンサートや美術展、映画上映、歴史的な文化財などを現地（会場）で直接鑑賞した」・「テレビやCD・DVD、インターネットの動画配信などを利用して自宅等で鑑賞した」と答えた方に伺います。この1年間の鑑賞頻度を教えてください。（1つ選択）

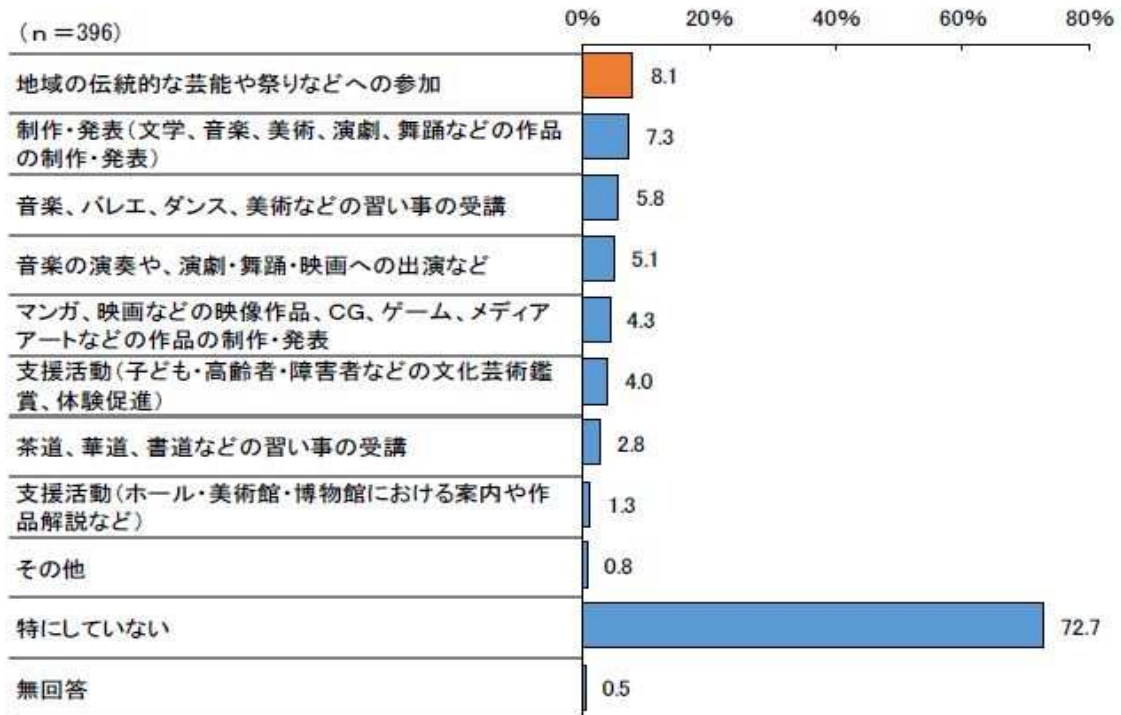
図表-37 1年間の鑑賞頻度（全体）



(22) 文化芸術活動を行ったか

問 22 あなたは、この1年間に次に挙げる文化芸術活動を行いましたか？（あてはまるものをすべて選択）

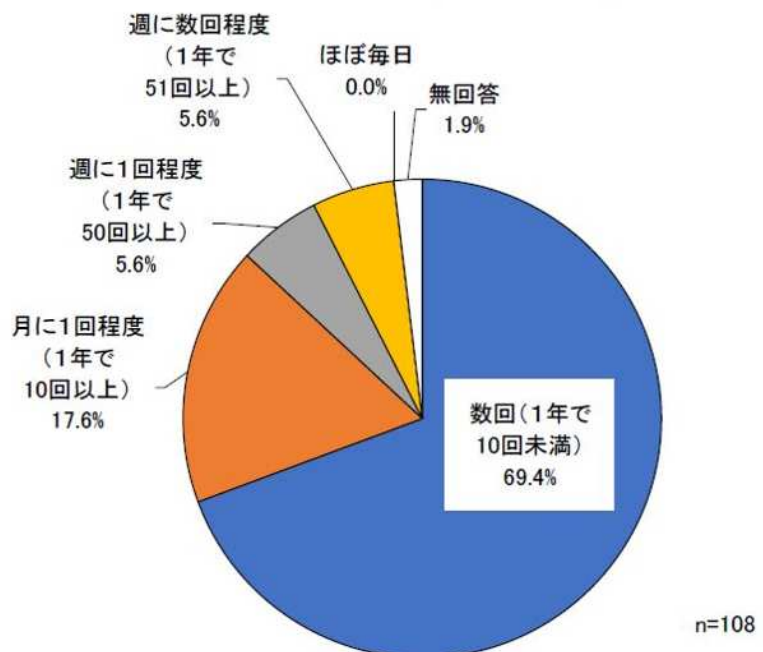
図表-41 文化芸術活動を行ったか（全体）



(23) この1年間の活動頻度

問 23 問 22 で「文化芸術活動を行った」と答えた方に伺います。この1年間の活動頻度を教えてください。（1つ選択）

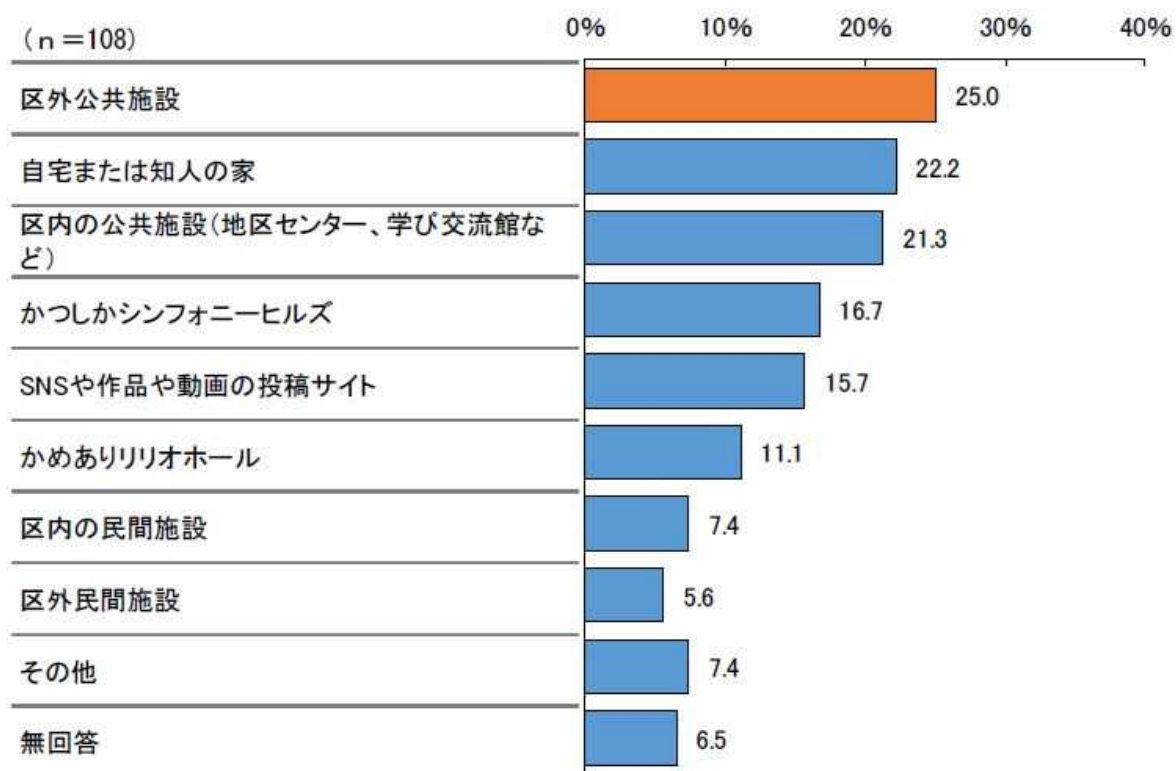
図表-43 この1年間の活動頻度（全体）



(24) 文化活動を行う場所

問 24 問 22 で「文化芸術活動を行った」と答えた方に伺います。文化芸術活動を行う場所はどこですか？（あてはまるものを全て選択）

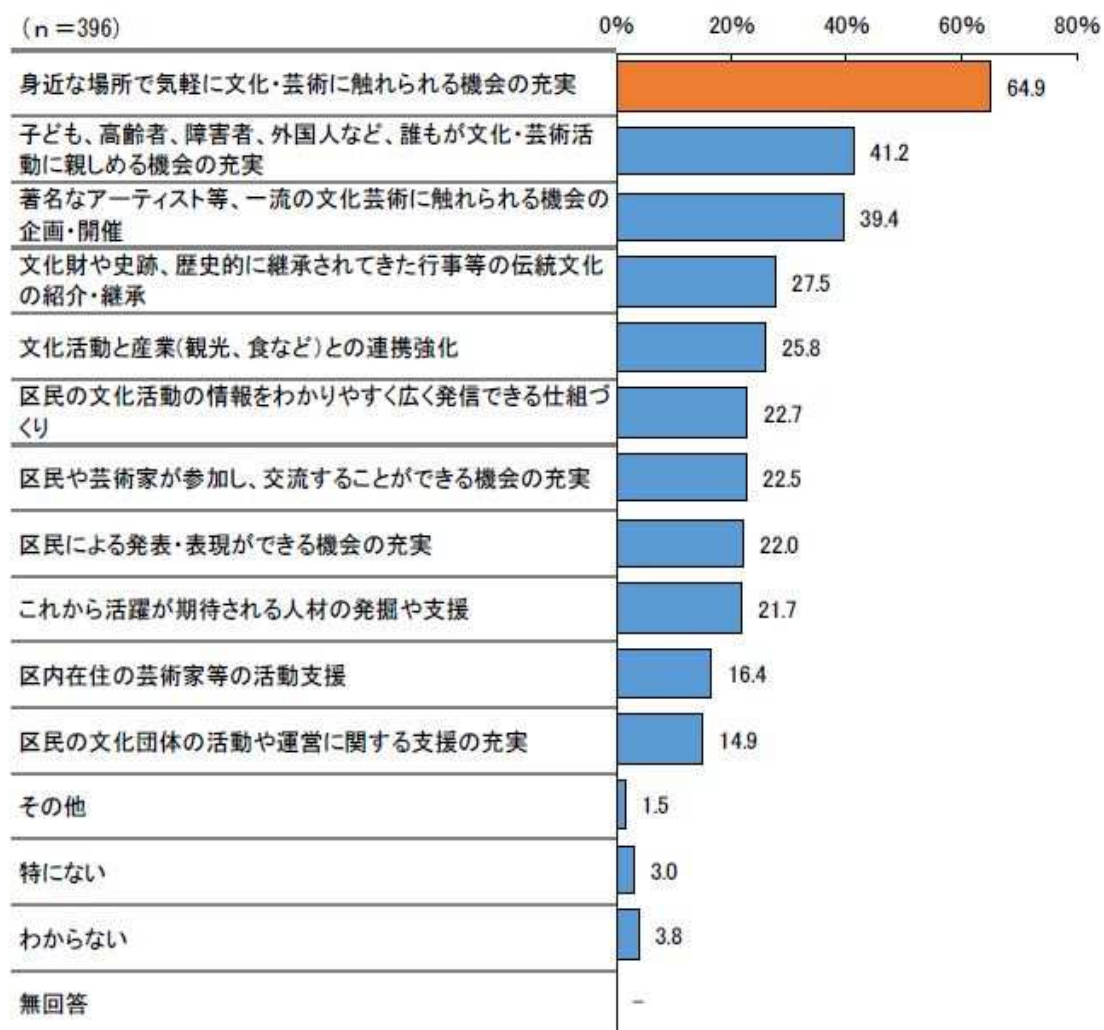
図表－45 文化活動を行う場所（全体）



(29) 文化的な環境を充実させるために重要なこと

問 29 葛飾区の文化的な環境を今より充実させるために、何が重要だと思いますか。優先して取り組むべきことを5つまで選んでください。(5つまで選択)

図表-55 文化的な環境を充実させるために重要なこと (全体)



※「その他」の内容としては、「区出身芸術家の展示機会等の提供」、「上手でなくても気軽に発表できるような場」、「地元企業と協力した取組」などがある。

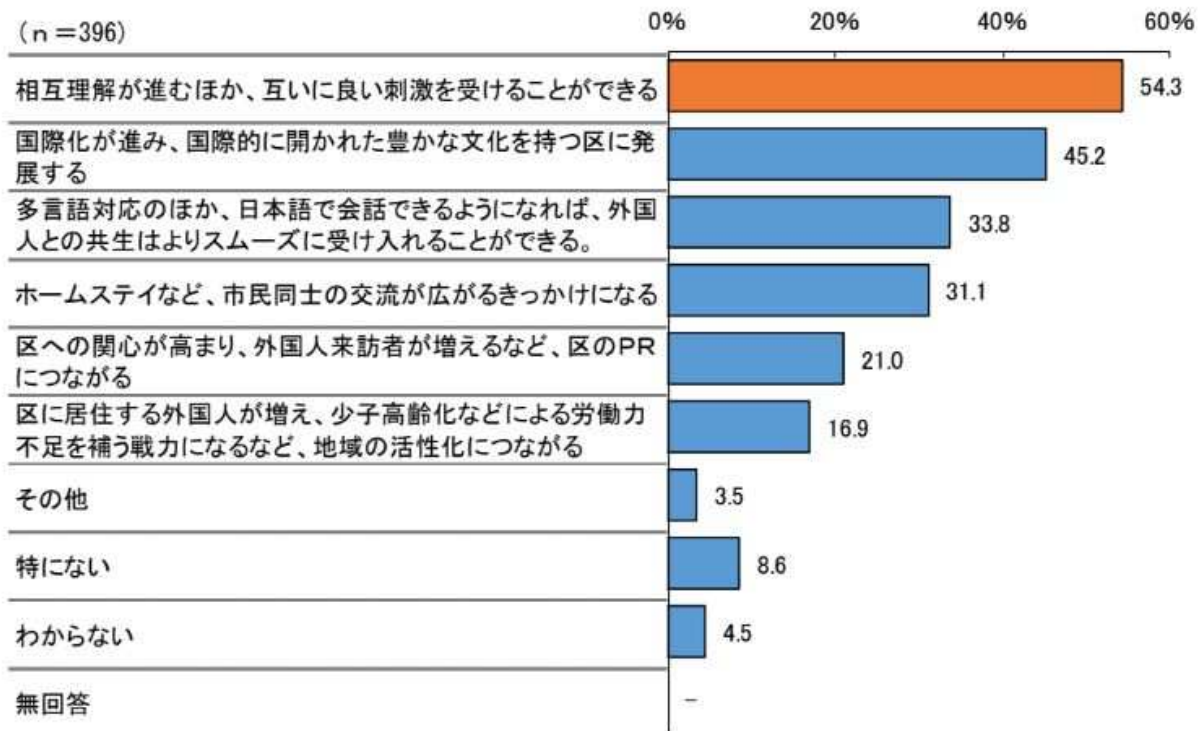
(30) 国際的な文化交流に期待すること

問 30 葛飾区は、海外4都市※との友好交流をはじめ、外国文化を学ぶ講座や国際交流まつりなどのイベントを行うほか、区内に在住する外国人との共生施策（日本語学習支援・やさしい日本語の普及など）を進めています。こうした国際的な文化交流の取組について、どのようなことを期待しますか？（あてはまるものをすべて選択）

※葛飾区と友好交流を行っている都市

- ・オーストリア共和国ウィーン市フロリズドルフ区
- ・中華人民共和国北京市豊台区
- ・大韓民国ソウル特別市麻浦区
- ・マレーシアペナン州

図表-57 国際的な文化交流に期待すること（全体）



（全体・性別・年代別・居住地域別）

※「その他」の内容としては、「日本のルールやマナーをよく知り理解する機会の提供」、「住んでいる人が困らないように、スーパーなどでの英語表記などのサポート」などがある。

資料—2「葛飾区文化芸術に関する基本方針策定に向けたアンケート調査」(2024年9月)

【調査概要】

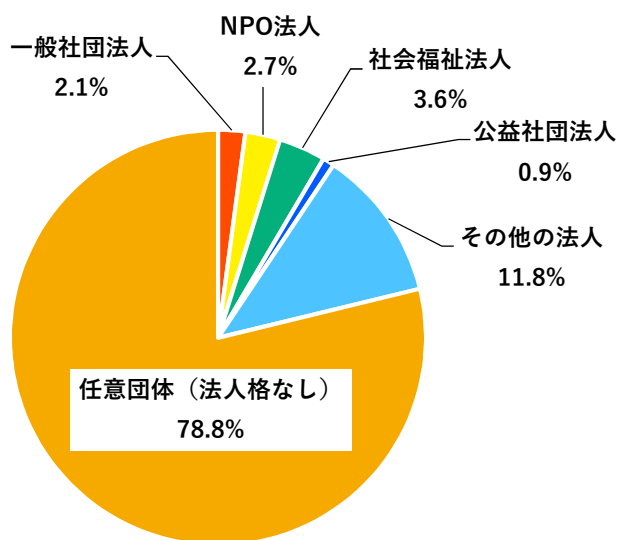
- ・ **目的** 葛飾区の文化芸術に関する基本方針を策定するにあたり、区を取り巻く文化芸術の現状や課題を整理し、今後の施策推進の方向性を検討する基礎資料とするため。
- ・ **設計**
 - (1) 調査対象 区内で活動する団体及び個人(文化・芸術、国際交流、福祉、産業・観光、子育て支援の各団体、教育機関、各地域で活動する団体、高齢者クラブなど) 555名
 - (2) 調査方法 インターネットまたはアンケート用紙での回答
 - (3) 調査期間 令和6年8月22日から9月4日まで
 - (4) 有効回答 330名

設問1 (貴団体の) 活動状況

属性1 (問) 団体の種類をお知らせください(法人格取得予定は、法人格に含む)

今回の回答した団体はほとんどが任意団体であるが、社会福祉法人が3.6%、NPO法人が2.7%、一般社団法人が2.1%、その他の法人が11.8%となっている。

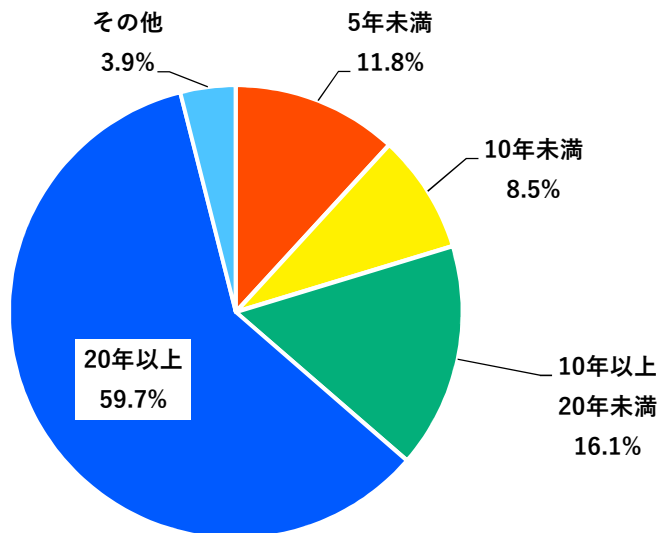
属性1 団体の法人格



属性2 (問) 貴団体は設立して何年ですか？

今回の団体の多くは20年以上の老舗団体で、次いで10年以上20年未満の団体が16.1%、5年未満が11.8%となっている。

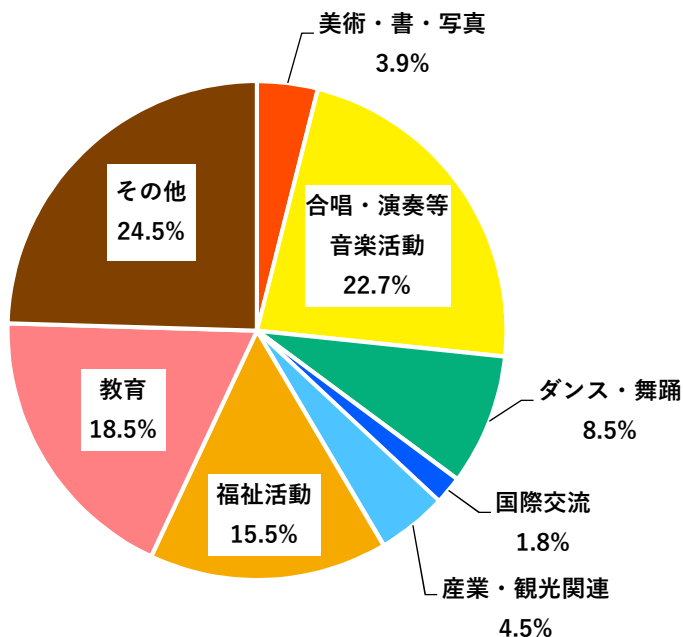
属性2 団体設立から何年



属性3 (問) 貴団体の主な活動はなんですか？

今回の団体の活動分野は多岐にわたるが、最も多いのが「合唱・演奏等音楽活動」(22.7%)で、次いで「教育」(18.5%)。「福祉活動」(15.5%)であった。

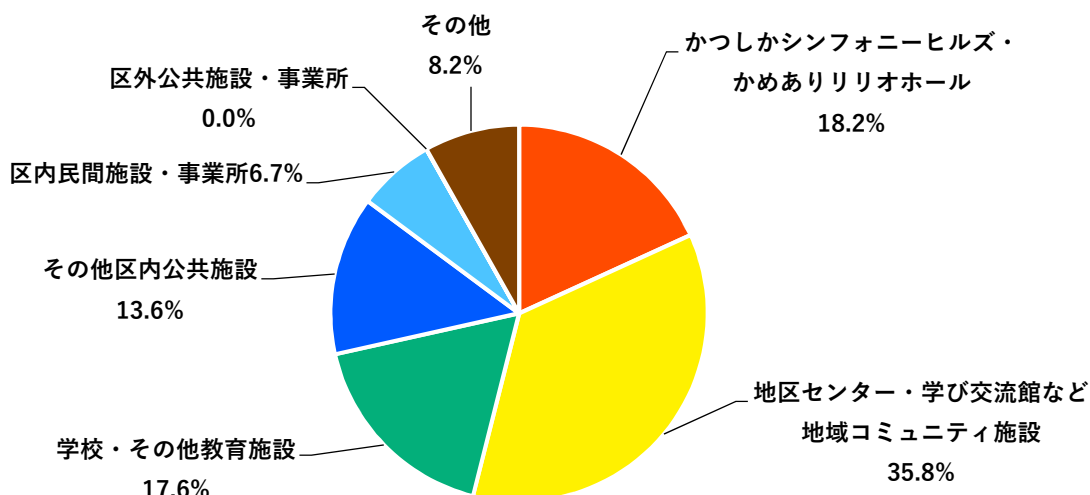
属性3 主な活動



属性 4 (問) 貴団体は、ふだんはどのような場所で活動していますか？またその場所を選択している理由を教えてください。

今回の団体の主な活動場所は「地区センター・学び交流館などの地域コミュニティ施設」(35.8%)が最も多く、次いで「かつしかシンフォニーヒルズ、かめありリリオホール」(18.2%)、「学校・その他教育施設」(17.6%)でありほとんどが公共施設となっている。他方、「民間施設・事業所」は6.7%となっている。

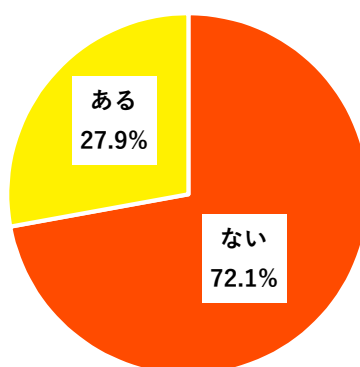
Q4 主な活動場所



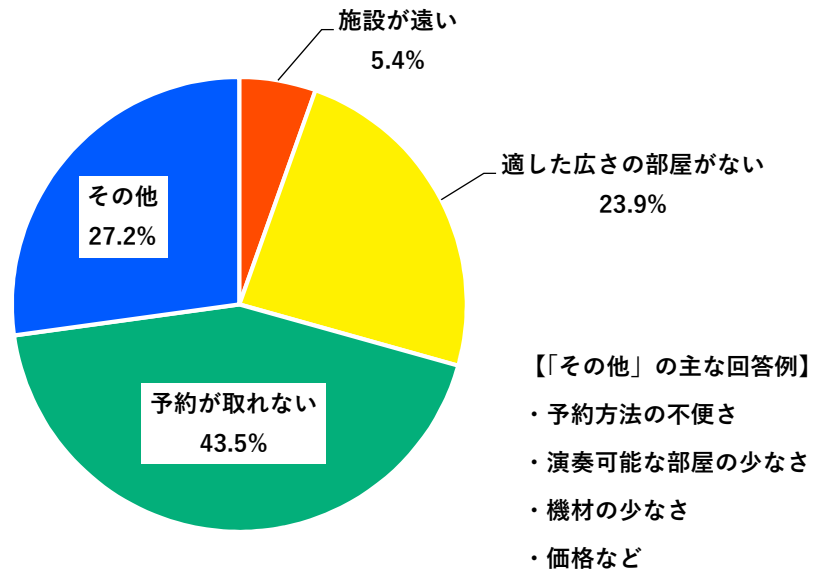
属性 5 (問) 貴団体が活動場所を確保する上での課題はありますか？

今回の団体にとって活動場所の確保が課題となっていると答えたのは 27.9%で、そのうち主な理由は「予約が取れない」(43.5%) ことであった。

属性5 活動場所確保上の課題の有無



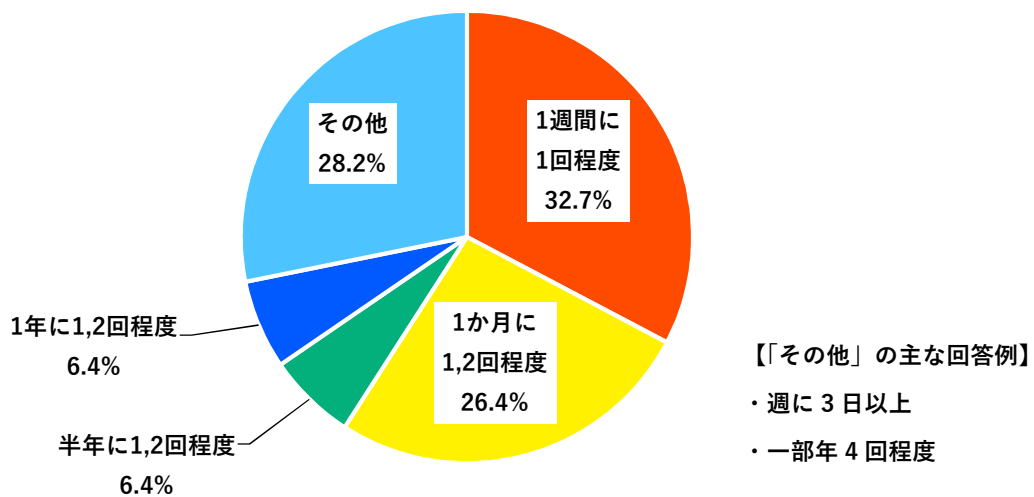
属性5 場所確保課題ありの内訳



属性6 (問) 貴団体はどのくらいの頻度で活動していますか？

今回の団体は、「1週間に1回」ないし「1か月に1,2回」といった比較的活動頻度の高い団体であることがわかる。

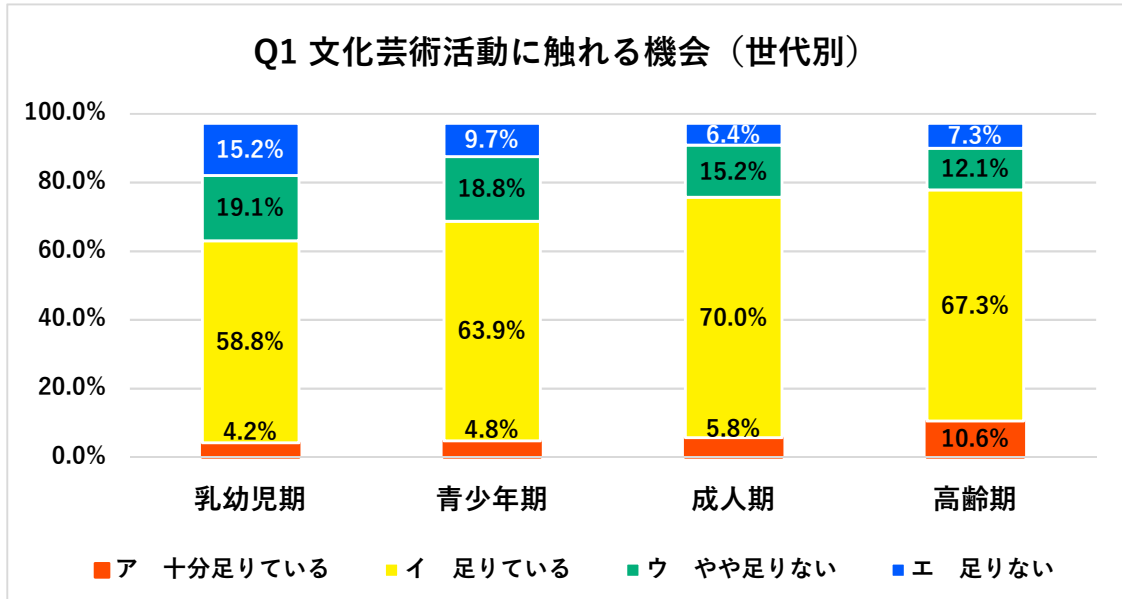
属性6 活動の頻度



設問2 葛飾区の文化芸術に関する基本方針を策定するにあたり、以下の質問にお答えください。

Q1（問）各世代における文化芸術に触れる機会について充実していると思いますか？

今回の回答からは、高齢期になるほど「十分に足りている」と「足りている」の割合が高くなっている。



【不足と感じる理由】以下抜粋

（乳幼児期）

- ・小さい子どもが気兼ねなく音楽や美術に触れる機会や乳幼児向けのイベントが少ない。
- ・音楽関係は足りてるように感じるが、絵画・漫画・アニメ・紙芝居などが少ない。
- ・広報としての宣伝力、アピールが足りない。区民に対しての知見を広められるとよい。
- ・区内に乳幼児を連れて行ける美術館がありません。
- ・チケット代が高い。

（青少年期）

- ・学業や他の活動で忙しく参加の機会が確保できない、保護者が付き添いできない。
- ・授業での体験が無くなっている、学校等で鑑賞や体験の機会を設けた方がよい。
- ・東京(渋谷や新宿、高円寺付近)などの洗練された文化に触れる機会が少ない。
- ・金銭的な面で難しいこともある、日本では音楽、芸術、映画などが高いと感じる。

（成人期）

- ・仕事が忙しい。
- ・茶道や華道など体験する機会があるといいのかもしれない。
- ・もう少し敷居が低く、気軽に安く聞けたり楽しめたりできるとよい。
- ・素敵な“映画館がない”。

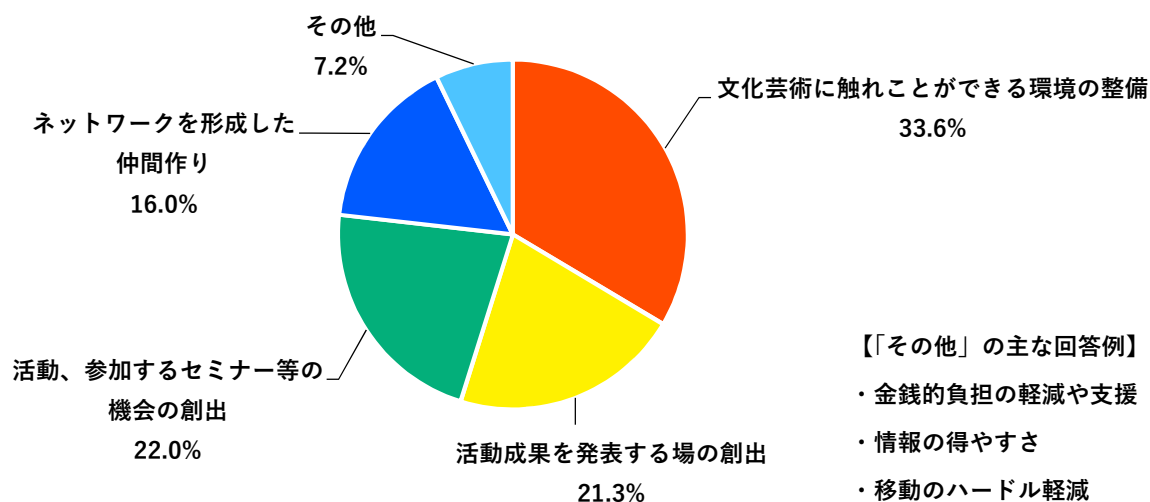
（高齢期）

- ・情報へのアクセス、移動手段の問題も解決してほしい。
- ・近い場所で、手ごろな値段で参加できる芸術・伝統芸能・芸能などが無い。
- ・クラシックに明るくなくても行ってみようかなと思える内容や価格に見直してほしい。
- ・高齢者向けのコンサートなどを開催すると、非常に人気が高く、公演数が足りていない。

Q2 (問) 高齢者への文化芸術に触れる機会の創出について重要だと思うものは何ですか？(複数選択可)

最も多かったのは「文化芸術に触れることができる環境の整備」(33.6%)で、次いで「活動、参加するセミナー等の機会の創出」(22.0%)、「活動成果を発表する場の創出」(21.3%)であった。

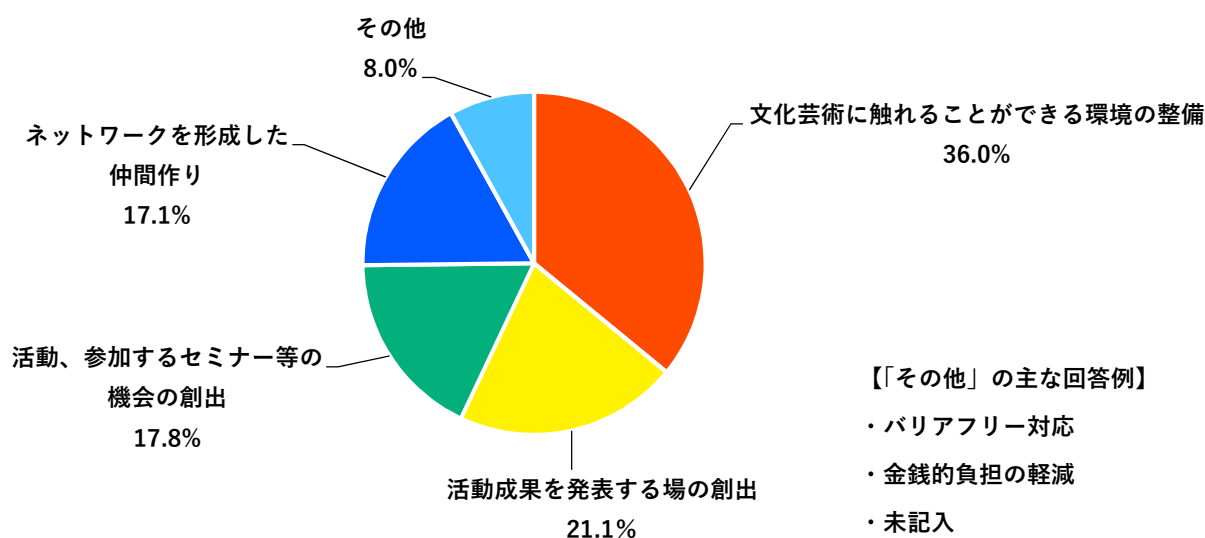
Q2 高齢者の文化芸術に触れる機会の創出で重要なこと



Q3 (問) 障害者への文化芸術に触れる機会の創出について重要だと思うものは何ですか？(複数選択可)

最も多かったのは高齢者と同じく「文化芸術に触れることができる環境の整備」(36.0%)で、次いで「活動成果を発表する場の創出」(21.1%)であった。

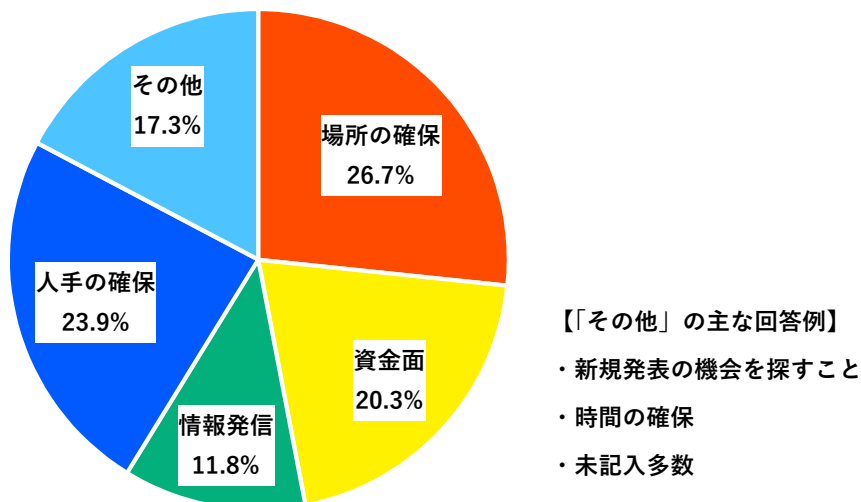
Q3 障害者の文化芸術に触れる機会の創出で重要なこと



Q4 (問) 貴団体が文化芸術活動やイベントを行う際の課題は何ですか？

最も多かったのが「場所の確保」(26.7%)で、次いで「人の確保」(23.9%)、次いで「資金面」(20.3%)であった。

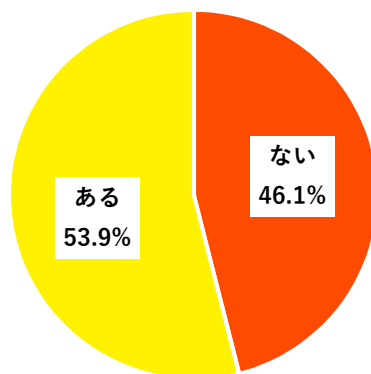
Q4 活動を行う際の課題



Q5 (問) 貴団体が今後活動を発展させていくための課題はありますか？

約半分の団体が「課題あり」と回答している。その内容は自由回答を見ると、多くが活動場所や資金や人材の確保となっている。

Q5 活動を発展させていくための課題の有無



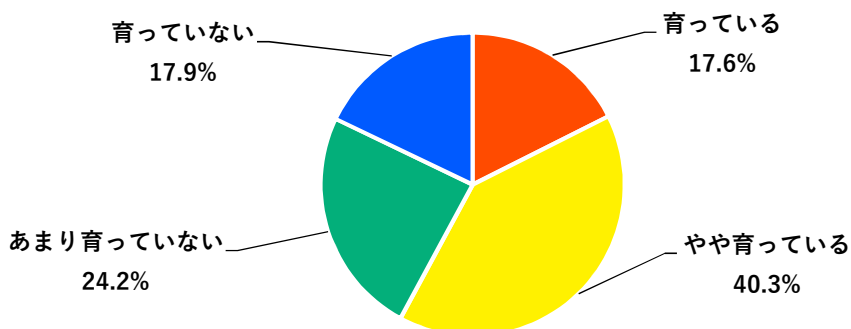
「ある」と回答した方は具体的に教えてください

順位	出現数	文書数	単語
1	43	39	確保
2	24	23	活動
3	14	14	資金
4	11	11	人材
5	13	10	会場
6	10	10	団体

- 【「ある」の自由回答例】
- ・新規会員や若い世代の確保
 - ・後継者育成、人材確保
 - ・活動場所の確保
 - ・集客の確保
 - ・資金の確保

Q6 (問) 現在の活動を今後継続するにあたり、後継者といえる人材は育っていますか？

Q6 後継者は育っているか



「あまり育っていない」「育っていない」と回答した理由			
順位	頻出数	文書数	単語
1	26	25	活動
2	17	16	若者
3	14	14	高齢化
4	10	10	後継

【(あまり) 育っていない理由の自由回答例】

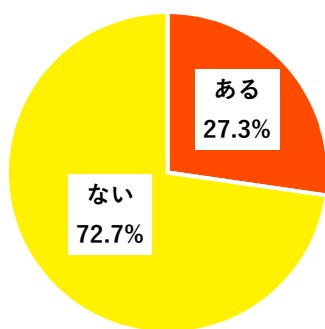
- ・ 習うことや体験には前向きだが、リーダー的立場になりたがらない
- ・ 高齢化で後継者がいない
- ・ 若い人が入らない
- ・ 継続意向はない

Q7 (問) 現在の活動の中で、他分野の人材活用を検討したことがありますか？

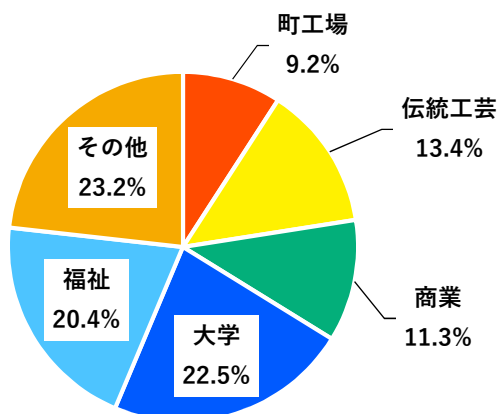
他分野の人材を検討したことがある団体は 27.3%であった。

検討したことがある団体の内訳は「大学」が最も多く 22.5%、次いで「福祉」が 20.4%、「伝統工芸」が 13.4%であった。

Q7 他分野の人材活用検討の有無



Q7 他分野の人材活用の検討「ある」の内訳



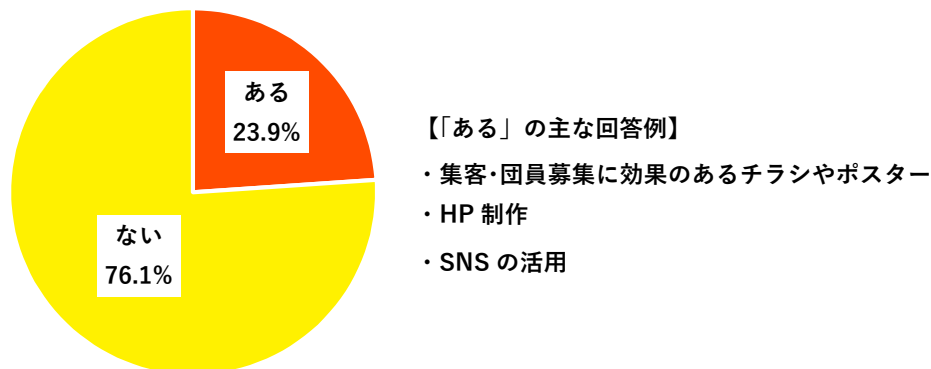
【「その他」の主な回答例】

- ・ 学生ボランティア
- ・ 観光関連分野
- ・ 地域の人材

Q8 (問) 現在の活動の中で、デザインや情報発信等を行う際、専門分野の力を活用したいと思うことはありますか？ある場合、それはどのようなことですか？

デザインや情報発信の分野の人材活用を考えたことがある団体は23.9%であった。

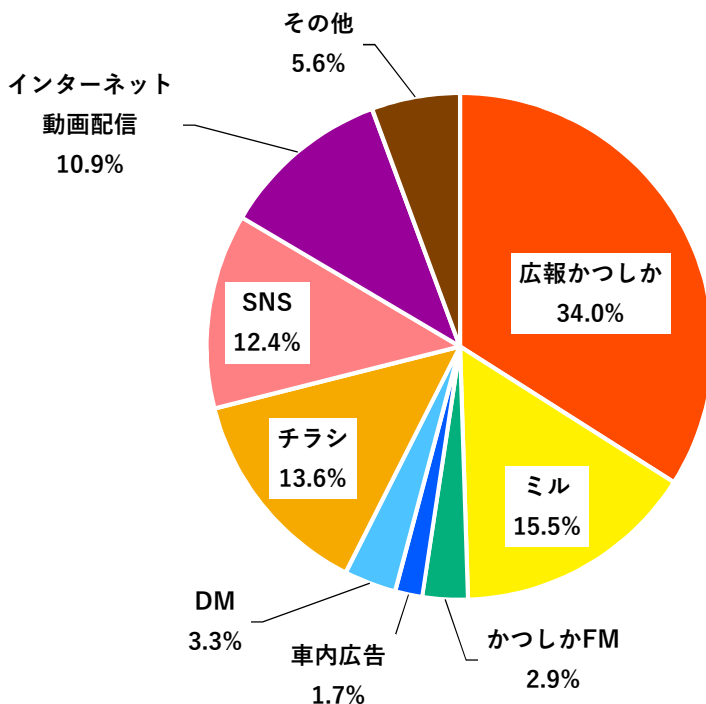
Q8 デザインや情報発信の専門の力を活用したいと思ったことがあるか



Q9 (問) 文化芸術活動に関する情報収集を行う際に利用しているものは何ですか？(複数選択可)

媒体として最も多かったのは「広報かつしか」(34.0%)であった。次いで「ミル」(15.5%)であり、この二つで全体の半分を占める。他方で、「SNS」や「インターネット動画配信」も合わせると23.3%あり、一定の割合を占めている。

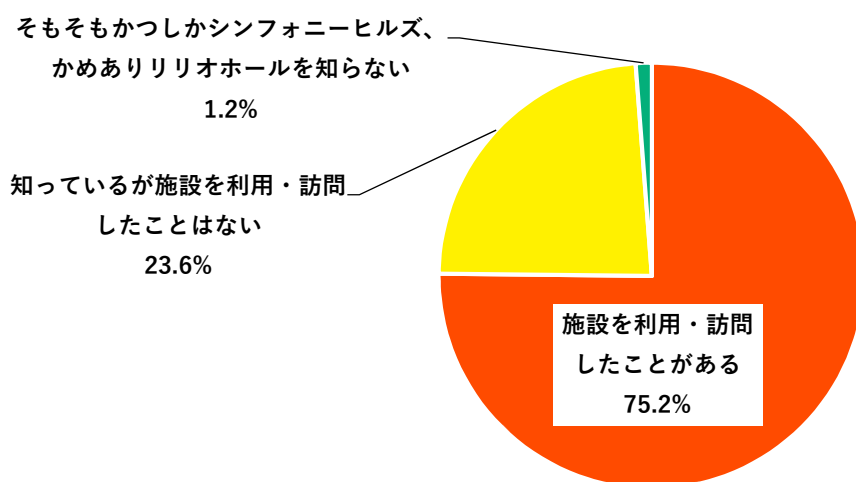
Q9 情報収集の媒体



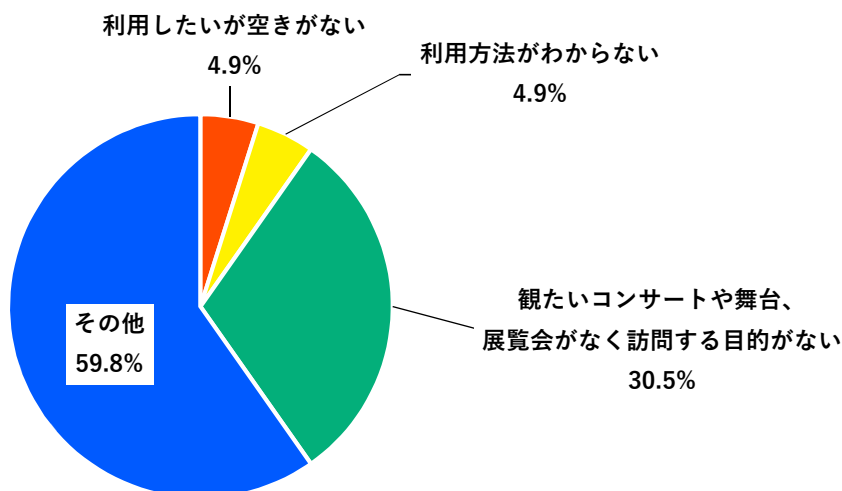
Q10 (問) 貴団体はかつしかシンフォニーヒルズやかめありリリオホールを利用・訪問したことがありますか？

「施設を利用したことがない」と「そもそも知らない」を合わせると 24.8%であった。その主な理由は「観たいコンサートや舞台、展覧会がなく訪問する目的がない」が3割を占めた。また6割を占める「その他」の内訳としては、概ね「必要がない」「地区センターで足りている」「予算的課題」「距離的課題」に集約できる。

**Q10 かつしかシンフォニーホール、かめありリリオホール
利用の有無**



Q10 利用・訪問したことがない理由



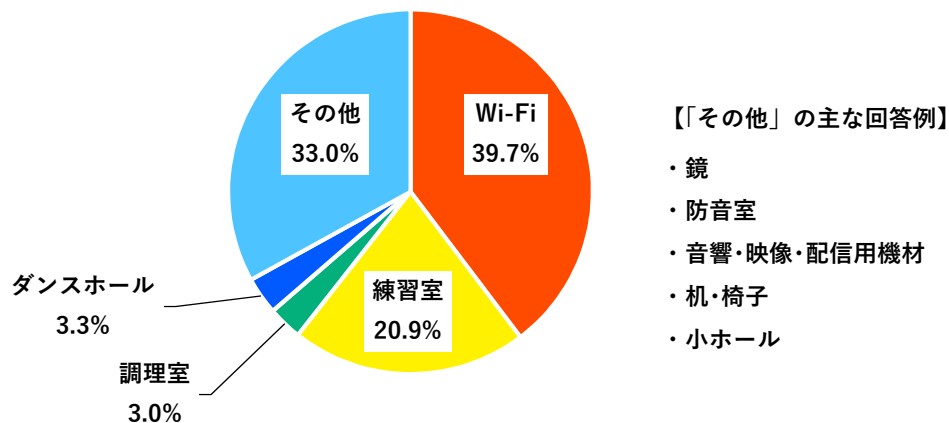
【「その他」の主な回答例】

- ・必要がない
- ・地区センター等で足りている
- ・予算的課題
- ・距離的課題

Q11 (問) 活動を続けていくうえで、施設機能としてあればいいと思う機能は何ですか？

施設機能としてあればいいと思う機能としては、「Wi-Fi」が最も多く 39.7%、次いで「練習室」が 20.9%であった。

Q11 施設にあってほしい機能



Q12 (問) 施設の利用にあたり、申し込みなどの手続きが便利になるとしたら、どのようなことを望みますか？

自由回答のみであったが、その中の頻出単語を調べるとランキング上位が以下のように「ネット、施設、申し込み、予約」であり、インターネットによる予約・決済システムを要望する意見が多かった。

順位	頻出数	文書数	単語
1	15	14	ネット
2	13	11	施設
3	12	11	申し込み
4	13	10	予約

【自由回答例】

〈予約・申込〉

- ・ネットで申込、抽選、決済、予約変更などが完結できるとよい
- ・どの施設からでも全ての施設予約ができるとよい
- ・ネット上で、全施設の空き状況が一覧でわかると便利
- ・インターネット予約は2か月～6か月前に行いたい

〈支払い方法〉

- ・当日窓口でのクレジットやQRコード決済を導入してほしい
- ・入金が窓口だけでなく振込やwebからカード決済などの方法の導入

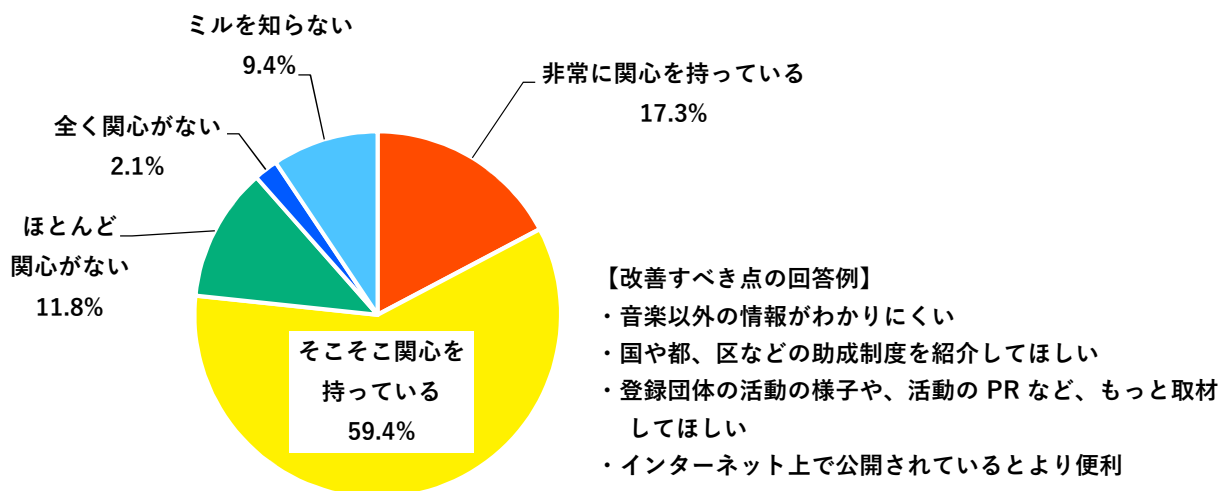
〈利用方法〉

- ・優先制度や優先枠設置、年間予約可など（区民や継続利用団体、助成制度採択利用など）
- ・連続して落選している場合に抽選の優先順位は上がらないものか
- ・練習場によっては鍵の管理・保管場所が離れている、地区センターで借りられるとよい
- ・窓口での受付時間がかかる。先客がいると長く待つことになるのを解消してほしい
- ・利用者会議のオンライン化

Q13 (問) 文化芸術活動の情報誌である「ミル」が全戸配布されていますが、どのくらい関心を持っていますか？また、改善すべき点はありませんか？

情報誌「ミル」については、76.7%が関心を持っており、多くの団体に活用されていることがわかる。他方で「ほとんど関心がない」「全く関心がない」「ミルを知らない」も1/4を占めている。

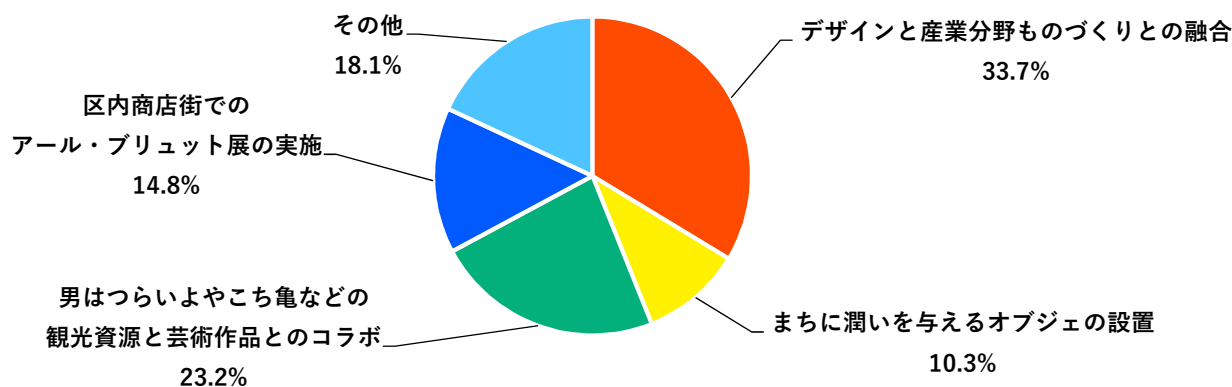
Q13 情報誌ミルの関心度



Q14 (問) 芸術作品（芸術・美術）を活用することで、葛飾区の新たな魅力を創出できる可能性のある取り組みは何だと思いますか？（複数選択可）

最も多かったのが「デザインと産業分野ものづくりとの融合」であった。次いで「男はつらいよやこち亀などの観光資源と芸術作品とのコラボ」であった。

Q14 芸術作品の活用による区の新たな魅力を創出可能な取り組み



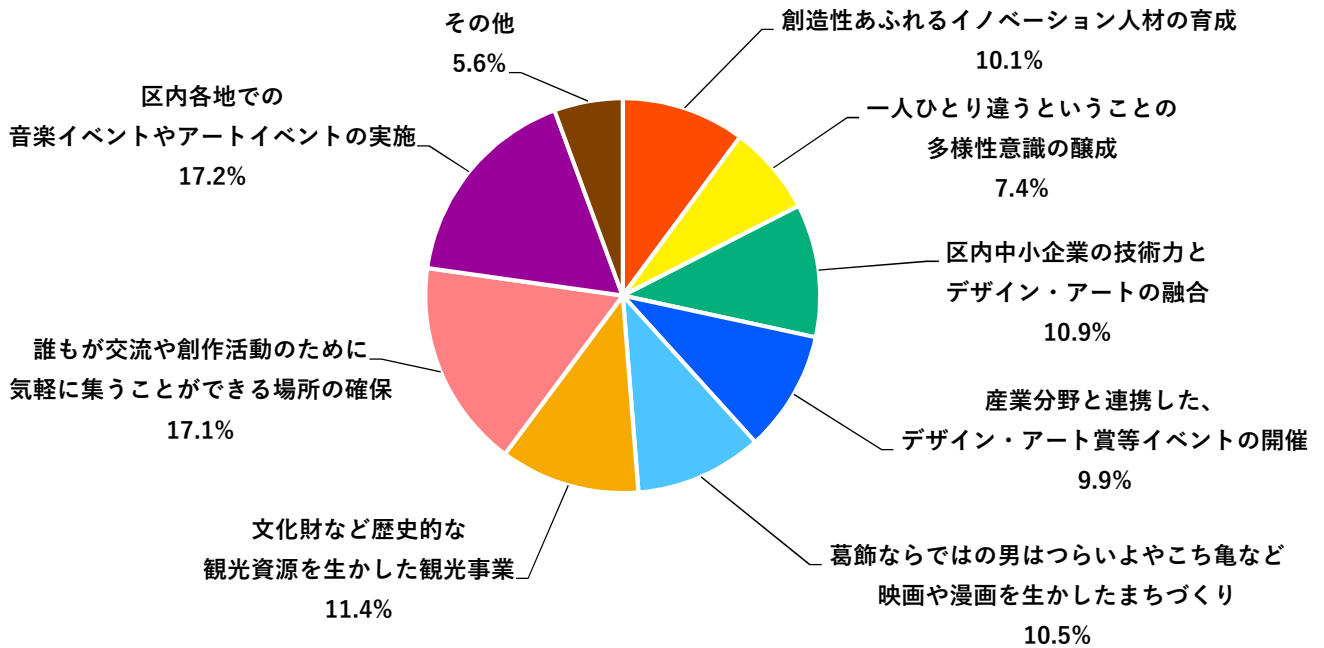
【「その他」の主な回答例】

- ・駅ナカのテナントが減っている。そんな場所を活用し、正規の美術教育を受けていない人による発表を行うのも良いと思う
- ・芸術家を招聘し、音楽祭、ビエンナーレの開催
- ・他の団体と交流できるような機会があると広がり生まれる
- ・こどもの主体的な活動や成長を包み込む取り組みや街づくりができると良いと思います。

Q15 (問) 文化芸術を生かした葛飾区の新たな魅力を生み出すにはどのようなことが必要だと思いますか？(複数選択可)

最も多かったのが「誰もが交流や創作活動のために気軽に集うことができる場所の確保」(17.1%)と「区内各地での音楽イベントやアートイベントの実施」(17.2%)であった。他方で「区内中小企業の技術力とデザイン・アートの融合」(10.9%)と「産業分野と連携した、デザイン・アート賞等イベントの開催」(9.9%)も合わせると20.8%となり一定の割合を占める。

Q15 区の新たな魅力を生み出すにはどのようなことが必要か



【「その他」の主な回答例】

- ・区内在住の芸術家が区内で活動しやすくする、場所の提供、資金援助
- ・ワンコインでクラシックに触れられるラ・フォル・ジュルネのような取り組み
- ・姉妹都市であるウィーンと連携して文化財の啓蒙活動
- ・子どもたちがプロの芸術文化に出会うイベントの実施。(子どもがスタッフとしても参加できる)
- ・地域の歴史的史跡を利用したアートイベントや区の文化財の宣伝

Q16 (問) 貴団体が他分野との連携企画で参加したいと思う事業等がありますか？(自由回答)

自由回答のみであったが、その中の頻出単語を調べるとランキング上位が以下のように「イベント、音楽、連携、商店街、地域、参加」であり、イベント実施による地域や商店街との連携を要望する意見が多かった。

順位	出現数	文書数	キーワード
1	57	42	イベント
2	27	25	音楽
3	29	23	連携
4	18	17	商店街
5	17	13	地域
6	13	13	参加

【自由回答例】

〈音楽〉

- ・大学、専門学校との連携音楽イベントや伝統芸能おけいこイベント
- ・中・高との合同合唱イベント
- ・読み聞かせ(絵本)や朗読と音楽の生演奏とのコラボ
- ・ジャズフェスのような街全体での音楽イベントなど"

〈生活文化・伝統芸能〉

- ・茶道や華道とコラボして謡曲を活かすことができないか
- ・神社やお寺と連携した華道・茶道イベント

〈産業・観光〉

- ・外国人と企業と飲食店が連携した祭りイベント
- ・まち歩きイベントでの町工場や伝統工芸の見学
- ・伝統工芸品を使っの踊りをとおして伝統工芸や伝統芸能を知ってもらいたい
- ・工場などの廃材を利用した作品づくりなどできたらよい

〈福祉・子育て〉

- ・福祉施設利用者と区内音楽家と町工場の知恵と技術とをかけあわせたイベント
- ・児童館や子育て施設とヨガをきっかけにママが息抜きのできる時間を作るイベント
- ・区内の児童養護施設やフリースクールと連携した教育プログラムへの参加支援。

〈スポーツ・健康づくり〉

- ・武道に興味のある方々とのイベント
- ・姉妹都市とのスポーツ交流

〈地域イベント〉

- ・近隣の公園や山本亭・堀切菖蒲園でのバザーや音楽イベント
- ・絵画でストリートアート
- ・ビールフェス亀有を亀有駅南口でやってみたい。
- ・食文化に関して大学と連携し、知識ノウハウを活かした地域貢献型のイベントができると良い

Q17（問）文化芸術振興が発展することによって得られる都市のイメージはありますか？また、葛飾区における文化芸術とはどうあるべき、あるいは、どうあってほしいと思いますか？（自由回答）

自由回答のみであったが、その中の頻出単語を調べるとランキング上位が以下のように「文化芸術、画像、下町」等であり、文化伝承や下町情緒の保全を要望する意見が多かった。

順位	出現数	文書数	キーワード
1	29	24	文化芸術
2	25	20	まち
3	22	20	葛飾区
4	18	18	画像
5	17	15	葛飾
6	15	13	下町
7	15	13	芸術
8	14	13	発展
9	14	13	文化
10	13	12	振興
11	13	12	都市
12	10	10	活動
13	15	9	区
14	10	9	地域

【自由回答例】

- ・下町情緒あふれる街並みを活かし、都心には残っていない人情を生かした”下町文化”を残してほしい。
- ・昔からの下町のイメージを残しつつ、葛飾 SC やキャプテン翼などアニメやスポーツとの融合
- ・23 区の中でも伝統工芸や町工場のイメージが強いので、それがオシャレにプロデュース・発信されて海外の方などにも知ってもらえたらよい
- ・下町的な魅力がありながら工業的にもトップレベルの技術や物があるところが売りになるとよい。インダストリアルデザインアート
- ・すでに世界中からサブカルチャーの街と認識されている葛飾区なので、その側面と文化芸術との融合が非常に重要と考える。方向性を間違えてはいけない。観光資源としてのサブカルチャーは大きな武器ではあるが、あくまでも区民のための文化芸術振興であってほしい。10年後、100年後葛飾区というブランドが世界でどの位置に立っているかを見据えた長期的な展望を持って政策に当たってほしい。
- ・文化芸術に身近に触れ合える町、年代に関係なく様々な世代で文化芸術に触れ合える町になるとよい。
- ・柴又や寅さんのイメージもあり、どこか懐かしさのある人情味あふれる人々が暮らす、ふるさと葛飾だが、その良さを引き継ぎつつ、若者など次世代にもつなげられるような、新しい発想で、魅力ある葛飾になってほしい。

Q18（問）文化芸術活動を行うことで得られる効果はどのようなものがあると思いますか？（自由回答）

自由回答のみであったが、その中の頻出単語を調べるとランキング上位が以下のように「心、生活、活動、交流、人生」などがあり、人と人のつながりをテーマにする意見が多かった。

順位	出現数	文書数	キーワード
1	33	30	心
2	16	15	生活
3	18	14	文化芸術
4	16	13	活動
5	13	13	交流
6	12	12	葛飾区
7	15	11	まち
8	10	10	人生

【自由回答例】

- ・日本をより好きになる、葛飾をより好きになる、地域力の向上、郷土愛
- ・人の輪が広がる、世代間交流、人とのつながり
- ・経済効果、活気のある生活、若い人が増える、賑わいの創出、街の活性化
- ・教養が養われ、そこで培われた多様性の認識と寛容さは世界平和に繋がる
- ・心が豊かに育つ、心にゆとりある暮らし、生活に潤い、生き甲斐が生まれる、心の支え
- ・発表することで達成感や自己肯定感が得られる。活動の場は交流を生み孤立を防ぐことになる。文化芸術の振興は健康寿命を大きく伸ばすと考える。
- ・人生の質の向上、楽しみ方の向上
- ・感動することが継続できるモチベーションを生む。多くのジャンルの芸術に触れ、たくさん感動することによって未来の担い手が生まれる可能性が増えるのではないか。